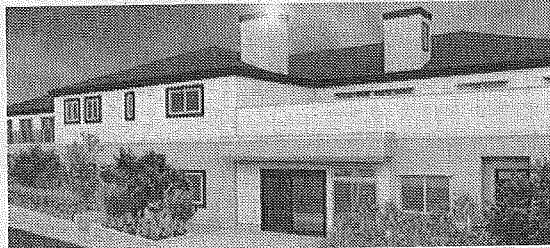


(第3種郵便物認可)

# 2×4耐火建築で攻勢

三井ホームは非住宅分野でのツーバイフォー(2×4)耐火建築事業を強化する。自社開発した狭小地や住宅密集地向けの2×4の分割建築工法を適応した有料老人ホームを東京23区内に2月に完成する。鉄筋コンクリート(RC)と比較して工期が短く、建築コストも安い2×4工法の優位点を強調。主に首都圏で、介護施設や高齢者専用賃貸住宅の運営会社に対し、土地持ち込み型での受注活動を強めていく。



東京23区では最大規模の2×4耐火建築物(グランタ杉並方南町、完成予想図)

## 三井ホーム

2月に完成するのはベネッセスタイルケア(東京都渋谷区)が杉並区で3月に開所する有料老人ホーム「グランタ杉並方南町」。2階建て42室で、延べ床面積は1578平方メートル。東京23区では最大規模の2×4耐火建築物となる。

住宅密集地での建築のため敷地を3分割して、小型クレーンを使って1区画ずつ建築する工法を開発した。工場生産比率が高い2×4工法のため同施設の工期は5カ月と、RCに比べ3カ月程度短縮。建築費も10〜15%削減できた。

ツーバイフォー工法は2004年に耐火構造認定を取得。都心の住宅密集地などの防火地域でも建築が可能となった。10年10月に施行された公共建築物等木材利用促進法の影響によって、老人ホームや学校の木材造化が進むことが予想される。

2×4の法定耐用年数は22年とRCの半分程度で、施設運営会社にとって短期間で減価償却可能というメリットもある。同社はこれらの強みを生かし事業拡大を目指す。

## 首都圏介護関連に照準